

佳作

いろんなことを教えてくれた、大好きな弟

広島県
広島市立安北小学校 三年

斎藤 野々花

わたしの弟は、しょうがいがありました。

だから、1年生に、いじめられてばかりでした。でも、弟はいじめられても、ニコニコわらっていました。それはやさしいからです。わたしと、けんかをして、3時には、自分のおかしところがおかしをもつてきてくれたり夜には、わたしがぐらいたちにおかしなのをしっていて、ついてきてくれたりして家族で1ばんやさしい弟でした。でもとつてもとつてもやさしかった弟が池におちて、死んでしまいました。そのときわたしは、のどをしゅじゅつしてにゅういんしていました。ついていてくれたおばあちゃんがかんごしさんに、

「おうちからおでんわです。」

と言われ、よばれてかえってきたときなくてかえってきたので、びつくりしました。わたしが、

「どうしたんでしょう？」

と、なんかいきいきいたらおばあちゃんが、

「ごめんけど、下で、おばちゃんがむかえにきてくれるから、かえつてから、話すよ。」

と言われたので、きになるけど、

「う、うん。」

と答えました。なんだろうどうしたんだろうと、思いながらも、1人じやさみしいから、かんごしさんと、あそんでいました。しばらくして、ドアのすきまからそとをみてみると、お父さん

がいたので、

「お父さん。」

と言つたら、父さんもないので、もう1ど、おばあちゃんに言つたように、

「どうしたん？」

と聞いてみました。すると、ちかくにあった、イスにすわつて、話してくれました。

「じつはけんとうが(弟)池におぼれて、しんだんじや。」

と聞いて、なきました。けんとうのいる、そうぎやさんに行つて、つめたくなつたけんとうのほつたをさわりながら、思いました。どうしてなんだろうしてなん。これ、ゆめだね。うそだよねえーと思ひながら、なきました。そしておそうしきと、おつやのことで、びつくりしました。それは、おそうしきと、おつやの日に来てくれた人の数が、四百人から五百人くらいの人が増えてきたからです。たつたの8年間しか生きれなかつたのに、こんなに人をしてつた弟は、すごいと思ひます。

どうしてそんなに、しつていたのか、わたしは、とうていもやさしかったからだと思ひます。わたしは、今こう思ひます。もしも、ゆめの中でもいいから、あえたら、

「ありがと。大好きだよ！」

と言つてあげて、ぎゅーと、だきしめて、あげたいです。